



コスタリカ共和国 草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 31

2019.2.28

～全国に広がる生活改善アプローチ～

NPO 法人イフパット 研究員 宮崎 雅之
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

iHola cómo les va! こんにちは、いよいよ本プロジェクトも終盤に差し掛かってきました。今号も前回に引き続き個人活動の紹介と全国規模で更なる広がりを見せる生活改善の活動を紹介させていただきます。

ファシリテーター指導者育成研修： 農牧省本省主導でファシリテーター指導者（トレーナー）育成研修が実施されました。目的は、現在スーパーバイザーのようなポジションにある、農牧省のベラさん、アナベルさんのように、ファシリテーターに指導を出来る存在をコスタリカ全国7地域に配置することです。そして、今後はそのトレーナー同士がネットワーク



写真1. 意見交換



写真2. 埴専門家による講義交換

クを形成して、情報交換や全国規模でのイベントを企画・立案・実施していくのが狙いです。また、これまではベラさん、アナベルさんが主となって、新しいファシリテーターを育成するために全国を飛び回り、ファシリテーター育成研修を実施してきました。これからは、各地のトレーナーがファシリテーター育成研修を行っていくこととなります。オロティナ市では市役所のルイスさん、保健省のエリーさんが主となってサンマテオ市役所、エスパルサ市役所、オロティナの各組織の職員をファシリテーターとして育成していく予定です。



写真 3. 4. コミュニティでの活動を想定した発表

農牧省オロティナ事務所から新たなファシリテーターがチーム参加：生活改善アプローチが実施されている全 7 地域のうち 6 地域には農牧省の職員が参加しています。しかし、



写真 5. 新しくファシリテーターとして加入するマリアイサベルさん

オロティナの農牧省地域事務所からはファシリテーターとしての参加は残念ながらありませんでした。そこに、プロジェクト終了間近ですがグットニュースが入りました。2019 年 4 月から農牧省地域事務所からファシリテーター 2 名の参加が決定しました。前述したように、既存ファシリテーターでトレーナーとなった 2 人による新ファシリテーター育成研修にこの 2 名が参加する予定です。今後、農業分野での助言や指導において、より効果的なアプローチが期待されます。

グループ員の個人活動紹介：

・アンジーさん

娘さんが 4 人いるアンジーさんは、食事や住居には困っていませんが、現在は現金収入がなく、法律的には違法に入植地に暮らしています。以前は首都サンホセに住んでいましたが、娘達の学習環境や様々な事情で数年前にセバディージャ（27 号線沿い）に移り住んできました。生活改善導入研修が終了した後、比較的早い段階でグループ活動（清掃・美

化活動)が始まったグループ 又エボ・アマネセール (Nuevo Amanecer:新しい夜明け) ですが、アンジーさんは同時進行で、家庭で出来る住居改善や環境に配慮した暮らしをするために様々な工夫をしてきました。まず始めに取り掛かったのが自宅の拡張です。元々、工具は小さい頃から扱っていたため、電動ドライバーを使用して壁やドアを取り外し、同じグループ員さんからもらった木材を利用して今までなかった居間を増築しました。これまでは、台所と寝室だけだったのですが、そこに新たに家族が一緒に過ごせる空間が出来ました。元々、床にタイルやコンクリートは敷いてなかったため比較的短期間で完成しました。この増築には導入研修に時々参加していた、次女(中学生)と三女(小学校高学年)が積極的に協力していました。その他、廃材等を利用した簡易花壇を作り、中庭の手入れをしたり、オリジナルの雑排水浄化装置を設置したりとお金がないなりに改善活動が実施されました。しかし、お金を必要とする改善もあります。そこでアンジーさんは考え、自宅周辺にある植物を活用することとしました。手始めとしてヘチマを活用し、スポンジ(500コロソノ個=約90円/個)や幼児用のサンダルを作製しました。強みとしては、手作りという点、オーガニック素材のため体に優しいということを売りに販売していくようです。今後は価格の見直し、販売先の洗い出しを行う必要がありますが、収入創出の第一歩として進み始めました。今後に期待しましょう。



写真 6. 居間の増築



写真 7. オリジナル雑排水処理装置



←写真 8. 廃タイヤ
を活用した花壇作り

写真 9. ヘチマを使用
したスポンジ、サンダル、
電気スタンド→



・フロリーさん

生活改善グループ員として約3年の経験のあるフロリーさんは、住居、健康、家族関係、家計、自然環境配慮のテーマにおいて、さまざまな改善活動を行ってきました。自宅の床や屋根、家庭菜園を家にあるものを活用し少しずつ改善してきました。以前は支援慣れの影響か、基本的に受動的な性格で自分から動くような姿勢は見られませんでした。その割には、すべてのメリットを享受したい、自分はもらう資格があるという自信、自分がその枠から抜けると機嫌を損ねるといった傾向がありました。しかし、活動をする中で、積極性が育ち、他人が得をしていてもあからさまに不機嫌にならず、その状況を認められるようになりました。主体的に行動することで自分の活動に集中して、隣の芝ばかりを見るようなことはなくなり、メリットに関しても、今回自分は恩恵にあずかれなくても次回にはきっとチャンスがあると思えるようになりました。そして、相手を思いやる気持ちが芽生え、今では近隣住民が使用出来る小さなコミュニティスペースを自宅の敷地内に建設し始めました。

その過程には、もちろん、フロリーさんの今までの行動を見た行政やファシリテーターの積極的な協力支援がありました。農村開発庁の支援で設置することができたビニールハウス、プロジェクト資金を得て完成したモデルバイオ庭園、社会開発庁の補助金を活用した養鶏といった様々な恩恵を受けたことで本人に心の余裕が生まれ、意識・行動が内向きから外向きに変化しました。現在では、新しいグループに対しての導入研修実施際に補助ファシリテーターとして演習に参加してくれています。



写真 10. ビニールハウス
(農村開発庁の支援)



写真 11. 近隣住民の
コミュニティスペース建設



写真 12. バナナの木を
活用したプランター



写真 13. モデルバイオ庭園
(IFPaT 支援)



写真 14. 台所改善の計画



写真 15. 養鶏
(社会開発庁の支援)



写真 16, 17. 導入研修にファシリテーターとして参加